

第3学年普通科 シラバス（家庭）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	家庭	科目	保育基礎	学年	3	類型	I型
単位数	2	教科書	保育基礎	出版社	実教出版		
副教材							

学習の到達目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

授業の概要

保育検定を受検し、保育の基礎的な技術を身に付けます。
 こども園での園児との交流では、幼児の発達段階にあった交流内容を考え、実践します。
 学習内容に応じて一斉指導、個別指導、グループ指導を行い、視聴覚教材も多く活用します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。
評価の対象	・ワークシート ・授業時の観察 など	・ワークシート ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など	・ワークシート（振り返りなど） ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 <ul style="list-style-type: none"> 5 … 十分満足できると判断できるものうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの 		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	1 章 子どもの保育 1 節 保育の意義 2 節 保育の方法 3 節 保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義と重要性について、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ・保育者にはどのような資質が求められるか、それを身に付けるにはどのようにしたらよいか考察を深めている。 ・家庭での保育の現状や、保育の場の環境の特徴や役割を理解している。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察している。 	
	2 章 子どもの発達 1 節 子どもの発達 2 節 子どものからだの発達	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個別性といった特徴があることを理解している。 ・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、発達の過程を理解する。 	
	4 章 子どもの文化 1 節 子どもの文化の意義と支える場 2 節 子どもの遊びと表現活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのように関わりを持つか、その意義について理解している。 ・遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、活動を通して理解している。 ・保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができています。 	
2 学期	3 章 子どもの生活 1 節 子どもの生活と養護 2 節 生活習慣の形成 3 節 健康管理と事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の栄養や食事の特徴を理解している。 ・衣生活と育児用品について、身体的特徴をふまえ、安全で快適に生活するために必要なものを選択できる。 ・発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察できる。 ・子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解している。 ・子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解している。 	
	5 章 子どもの福祉 1 節 子ども観 2 節 子どもの福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども観は国や地域、時代によって変化していることを理解している。 ・時代の変化と共に子どもが権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解している。 ・子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解している。 ・児童憲章や児童の権利に関する条約を通して児童福祉の基本的な考え方を理解し、子どもの幸せとは何かを考察している。 	
3 学期	5 章 子どもの福祉 3 節 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解する。また、子育て支援の今後の課題と展望について考察している。 	